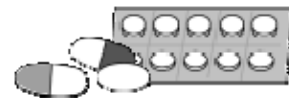


## 薬の豆知識

### 医療用麻薬について



薬剤部無菌製剤グループ係長 齋田 和江

「病院で使う麻薬とテレビでたびたび報道されている覚せい剤は同じものですか？」と、最近よく質問されます。さて、皆さんは、医療用麻薬（病院で使用する治療用の麻薬）がどのようなものかご存知でしょうか？そこで、医療用麻薬について少しお話をしたいと思います。

医療用麻薬には、たくさんの種類があります。長時間作用するものや速効性のあるもの、内服薬（のみ薬）、貼付薬（はり薬）、坐薬（お尻からいれる薬）などなど。したがって使用方法もさまざまです。また、がんによる痛みだけではなく、帯状疱疹後の神経痛や手術後の痛み止めとして使用されることもあります。ところが、以前から医療用麻薬は『怖いもの』というイメージがあるため、使うことに抵抗を感じる方もまだいらっしゃるようです。例えば使い続けると効かなくなる、中毒になる、やめられなくなってしまうのではないかと。しかし、そのような心配はいりません。医療用麻薬を長い間使用したり、使用する量が増えても、効かなくなるようなことはないのです。また、麻薬中毒のイメージは、大麻や覚せい剤の乱用と同じ様に考えられているようですが、医療用麻薬を使用しても快楽を得ることはできません。治療目的以外の使用は不正使用または乱用になりますが、痛みの治療のために繰り返して使用した医療用麻薬によって薬物依存を起こすことはほとんどありません。そして、他の治療（抗がん剤や放射線治療）により痛みが弱くなったり、痛みがなくなった場合には、薬の量を減らしたり、やめたりすることも可能です。ただし、自分の判断で薬を急に中止すると、自律神経のバランスに影響が出ることがありますので、薬を減らすときは医師と相談することが必要となります。

また、「医療用麻薬は最後の手段、使い続けると命を縮めると聞いたことがある」と話される方もいらっしゃいますが、それは一昔前の医療用麻薬の知識が十分でなかった頃の話です。がんによる痛みに関しては、2007年にがん対策基本法が施行され、できるだけ早い時期から痛みに対しての対策がとられるようになりました。そのため、現在では痛みの段階に応じて、医療用麻薬を積極的に用いるようになってきています。したがって、早い時期から痛みをとることにより体力や気力が回復し、快適に過ごすことができるようになりました。その結果として、寿命が延びるケースも多くみられます。副作用の対策もとられていますので、安心して使用することができます。



以下のように、医療用麻薬は使用方法を間違わなければ怖い薬ではありません。このことを、患者さんやご家族、周囲の方々に是非知っていただき、医療用麻薬に対する理解を深めていただきたいと思います。そして、患者さんにつらい痛みをがまんすることのないようにしていただきたいのです。医療用麻薬について、疑問や心配なことがありましたら、医師、看護師、薬剤師に相談してください。